

第 17 回(平成 20 年度第 7 回) ISO/SR 幹事会 議事録

1. 開催日時 : 平成 21 年 2 月 10 日 (火) 10:00~12:00

2. 開催場所 : 砂防会館 別館 3 階 「立山」会議室

3. 出席者 : 【敬称略・五十音順】 出席者(○)、欠席者(×)

委員 : 松本 恒雄(一橋大大学院)○、青木 健(連合)○、足達 英一郎(日本総合研究所)○、稲岡 稔(セブン&アイ・ホールディングス)×、逢見 直人(連合)△(代理:大久保)、長見 萬里野(消費者協会)○、熊谷 謙一(連合)○、黒田 かをり(CSO ネットワーク)○、斎藤 仁(経団連)○、佐野 真理子(主婦連合会)○、下澤 嶽(JANIC)○、関 正雄(損保ジャパン)○、富田 秀実(ソニー)○、深田 静夫(経団連/オムロン)×、藤代 尚武(経済省)△(代理:宮澤)

オブザーバ : 青木 修三(環境経営学会)、長沢 恵美子(経団連)、日野 勝吾(内閣府)

事務局 : 岡本 裕○、佐藤 恭子○、櫻井 三穂子×(以上 JSA 記)

4. 議事次第 : 省略(議事次第参照)

5. 配布資料 : 省略(議事次第参照)

6. 議事概要 :

6. 1 議事、資料及び前回の議事録の確認

事務局から、議事及び資料の確認が行われた。追加議事提案もなく、議事次第案は異議無く了承された。

<質疑応答>

- ・ 議事録の中に「結論」という囲みがあるが、これは前回の幹事会で検討の方向性を確認したということであって、すでに合意されているから最終的な確認をしないということではないという理解でいいか。

→前回の議論の確認事項という意味で「結論」としている。最終的なものではない。

最終回で再度コンセンサスの確認を行う予定。

6. 2 CD コメント候補案の検討

資料 WGI-17-2 にしたがって、CD コメント候補案の検討を行った。主な議論の内容と結論は次のとおり。

(1) SMO ボックス (#29～31)

斉藤委員より、WG I-17-7 にしたがって修正提案の説明があった。

- ・ SMO に対するガイダンスと他の組織が SMO を支援するガイダンスが一緒になっている点を必要最小限の修正で整理してみた。
- ・ ボックスの意義を最初に明記。
- ・ SMO に対するガイダンスとして、中小規模のメリットを追加。
- ・ 他の組織との連携に関する記述を追加。
- ・ 地域に密着している点については、いい案があったら追加していただければ。

<意見交換>

- ・ SMO 自身に対するガイダンスと周りの組織に対するガイダンスが整理されて二本柱になっている。SMO へのガイダンスとしては、「小さいからこそいい」というポジティブな面を書いている。地域については、共同実施の中で書けるといいかもしれない。
- ・ 分かりやすくなっているが、前回の議事録にある「追加する」ということを超えて原文の内容を変えてしまっているように見受けられる。原文では「SMO は次を行うことが望ましい」となっていたところを、「SMO が組織に SR を統合していく上の考慮事項を参考として掲げる」と変更しているが、単なる参考資料として掲げるというのはガイダンスにはならない。また、「必要に応じて徐々に取り組んでいくこと」と「合理的かつ明確な時間枠を定めて取り組むための計画を立てる」とでは、実質的に違う。十分に検討する必要があるので、それぞれの組織に持ち帰って次回までの検討課題とさせていただきたい。
- ・ サンチャゴ総会にオールコメントとして出したコメントには、中小組織には例外を認めるべきというコメントがあったが、今回の修正案は、東商側にかなり譲歩してもらった内容。時間を決めてやれといわれたら引いてしまうが、まずやる気にさせて先に進めるほうが現実的ではないかということでご理解いただきたい。
- ・ ボックスをどのように捉えるか。この規格は SMO を含め全ての組織に対するガイダンスであり、何をすべきかが書いてある。SMO については特に参考としてこの

ようなことが言えるのではないかというもの。必ずしもボックスに **should** を使うということにはなっていないと思う。有益な情報を提供するという意味では提案のような書き方でもいいのではないか。

- ・ 限られたタイムフレームの中で、どの段階でどこまで合意していくかを決めていくべき。先延ばししていても結果的にまとまらないことになるので、その点ご留意いただきたい。

<アクション>

- ・ 次回再検討。

コンセンサスを得るために本提案に対する積極的な提案、コメントがあれば提案起草者に事務局経由又はエキスパートメーリングリストで送付し、修正案の作成に協力する。(対象：幹事会全員)

(2) サプライチェーン (#42~45、85)

斉藤委員より、WG I-17-4 にしたがってリストの説明があった。

- ・ 原文の中でサプライチェーンとバリューチェーンが使われている部分をピックアップした。
- ・ 川上から川下までという概念でほぼ一致している。川上だけ特定しているものは見受けられなかったなので、規格の中でサプライチェーンとバリューチェーンを区別していないというのが、分析結果。

<意見交換>

- ・ サプライチェーンとバリューチェーンの本文での書き分けをチェックすることを編集委員会に提起するのがいいのではないか。
- ・ SoI は川下にも川上にも広がっていくものなので、川上にだけ限定する必要はないのではないか。
- ・ サプライチェーンに重い意味を持たせるということも理解できるが、本当にサプライチェーンだけでいいのか。この定義でサプライチェーンだけでいいということにはならない。そうするとバリューチェーンも使わざるを得ない。
- ・ 「国によっては」という文章があるのでいいのでは。こだわっているのは日本のみ。この分析をもとにもう一度提案するのはあり得るとは思うが。
- ・ この段階では、バリューチェーンをサプライチェーンに置き換えるという主張はしない。不統一に積極的な意味があるのであればいいが、意味がないのであれば、あ

- まりよくないのではないか。
- ・ サプライチェーン、バリューチェーン及び SoI の3つを使って説明していこうというのはいかほどの合意。リストをもとにバリューチェーンだけでいいのか、あるいはひとつひとつ使い分けをするのかということを含めていくというのが現実的では。
 - ・ 組合の中小企業労組から言うと、上流か下流かというのは影響が異なる。その意味では、サプライチェーンとバリューチェーンの違いは明らかにある。しかし、確かに使用が混同されているところがあるので、使用法について編集委員会に検討してもらおうよう提案しては？
 - ・ 川下は放っておいていいのかということを含めて議論していただければ。それがよくないのであれば、バリューチェーンを使うということとしてはどうか。
 - ・ 3つにしたことの意味を確認し、川上だけでいいのかということを含めてロジカルに見ることを提案しては。元に戻すような議論はできない。何故3つの概念が必要なのかを含めて議論しろというのがいいのではないか。
 - ・ 確認すべきは、バリューチェーンとある部分は川上と川下を、サプライチェーンとある部分は川上のみを意図して書いているのかということ。バリューチェーンとあるところでも川上を強調したほうがいいのかもあってもいいかもしれない。SoI と言えはすべて入ってくるようなところもサプライチェーンとしてあり、これが川上のみを重視しているのであればいいのだが。日本から提案せずに IDTF に再検証してもらおう提案とするか？
 - ・ IDTF 委員が次回の会議においてこれらの用語の区別を再検討してはと意見してはどうか。
 - 日本としてコメントを出さないということか？
 - 日本としてコメントを出しておいたほうがいいだろう。ケベックで議論になった時にコメントも出していないのに意見すると却下になりかねない。
 - ・ 「supply chain or value chain」は論理的におかしい。value chain だけでいい。
 - ・ いずれにしても、放置しておくのは読者にとって不親切。
 - ・ 最終的には編集委員会が定義の整合性をチェックするので、本件に限らず、定義の整合性については編集委員会にチェックをお願いしては。

<アクション>

- ・ 次の2つのコメントを日本コメントとして提出する。
 - ①定義の整合性の確認を求めるコメント (General コメントとして)
 - ②バリューチェーン、サプライチェーン、Sphere of Influence の使用法に不統一

があるので、用語の定義との整合性、起草者の意図が反映されているかを再検証するとともに、可能な限り用語の統一を図ることを求める。リストを添付する。

- #42～45、85 のコメントは上記コメントでカバーされるものとする。

(3) コミュニティ (#110、111、120、121)

- (#110 について) 途上国では多くの場合、政府の下部組織が硬直していることが多く、施策が十分に吸収されない傾向があり、NGO や市民グループが補完的に活動しているケースが多い。そのため、カウンターグループの意見も聞いたほうが良いというのがコメントの意図。
- (#120 について) 経済活動は必ずしも潤沢に早く施策としてコミュニティに裨益するわけではなく、潜在的なコミュニティの問題意識とつながりにくい。経済活動を改めてここで強調すべきではない。外から入ってくる施策としての経済活動より、住民が主体的に取り組めるような機会作りのほうがむしろ大切と考える。
- 労働の見解は下澤委員と基本的に共通するもの。#111 は最大化させると断言しているところに違和感を持った。#121 については、納税義務が先に来ることに違和感を持った。

#120、121 について：

- #121 は全文削除でいいか？
- 外からの経済活動が最も住民に恩恵をもたらすのは雇用と考える。富の創出や所得の創出はここで改めて強調すべきではないのではないか。コミュニティの中に存在すること自体に違和感を持つ。
- **Social business** や **Social venture** について、NGO はどのように考えるか？
→小粒な産業が生まれるべきということを否定はしない。コミュニティの問題は何か。資本が投下され、強いものは流れに乗っていけるかもしれないが、逆に相互補助のシステムが弱まったり、競争に乗れない人々の問題が顕在化するので、そういった面をこの章で扱うべき。ISO 26000 の中では弱者への施策に対するコミュニティの貢献が強調されるべき。
- コミュニティの部分は改善していると思うが、他に比べると成熟していない。そもそも 이슈の並べ方が本来あるべき姿でないという印象。手段や目的、イシューが混在している。サンチャゴでも産業界から提案したが、ドラスティックにやるのであれば、もう一度 이슈の並び替えを議論してみてはどうか？
- 分かりにくくなっていることは確かだが、この中には今までの議論が含まれている

- ので、全部削除してしまうと何かが抜けてしまわないか検証が必要。
- 全面修正が難しいのであれば、全文削除でない提案のほうが受け入れやすいのではないか。あまりにも細かすぎる部分をやめるなど。
 - コミュニティにあるから違和感があるのか？他に移行することで対応できないか？
 - コミュニティの問題の考え方からするとここまで幅広い経済活動を認めることは本来的ではない。経済参加が難しい人々への特別な配慮が行われる経済活動を推奨するようなものに限定されるのであれば、いいかもしれないが。
 - 企業が税金を払えば、政府が地域に投資ができて貧困対策ができるなどの一般的な内容なので、これであつたら記述は必要ないのでは。
 - **Self employment** を促すような関わりに特化して、弱者が経済活動に参加できるような側面的な支援をすることで代案を出すことは可能。
 - コミュニティに関しては、 이슈の整理を行ったほうがいい。今更と思われるかもしれないが、日本の産業界がコメントとして提出したものをみていただいて次回議論していただければ。
 - コミュニティの発展に関する政府の責任をどう考えるかという文脈で納税の義務を強調するような今の原文になっていると思うが、その点 NGO はどう考えるか？
→昨今、政府機能の健全化が強調されている。税金の使い道や透明性について問題がある国が多く、それをどのように改善するかというのは様々な方法があると思う。政府のガバナンスや透明性の責任を遂行するような能力向上という言葉は必要。納税を浮かび上がらせるのは、指摘として狭い。
 - 途上国以外はどうか？途上国がすべてではないので、うまく区別して提案したらいいのではないか。コミュニティの捉え方が人によって様々で混乱している。
→コミュニティの弱体化は先進国も途上国も基本的には一緒。最大の問題は人間関係が疎外されていくことと弱者の社会参加の力が弱まること。行政が NPO や市民グループとの補完関係を持ちながらやっている点では、共通項は多いと思う。
 - コミュニティの定義なしに、**international community** から **local community** まですべてコミュニティになっている。
 - コミュニティという言葉がはやったのは 1950 年代。あまり最近は使わなくなっている。WD の時から物理的な地域性に拘ることに違和感を持っていたが、議論の流れもあるので、コミュニティをいい意味で生かすような文章にできないかと思っている。地球全体を抽象的に考えるより、生活空間の中で何を実現するかということを考えることが問題の把握にもなるのでは。目に見える空間で目に見えることをす

ることが組織にとって関わりやすいガイダンスとなるのではないか。

- 2311 行目にあるように、コミュニティを地理的なものを中心として整理している。イシューをゼロベースから整理するというのは難しいのではないかと思う。**Income creation** を独立したクローズにすべきか否かという議論はあると思うが。→すべてを書き直すというわけではなく、**consideration** のほうにイシューを持っていくなどという組み換えレベルで考えている。他のイシューに入れるなどということも考えてみては。
→項目のタイトルを変える、他のイシューに移動する、総論的な **consideration** のところに入れるなども検討していただきたい。

<アクション>

- 本日の議論を踏まえて、修正提案を作成。（修正提案作成：下澤委員）
提案は、全文削除というものではなく、構成の修正案、並べ替え（適切な箇所に移動）とする。
- コンセンサスコメントを作成するために、修正案の作成に関しては、各委員の協力を仰ぐものとし、修正案作成に資する提案などがあれば事務局経由又はエキスパートメーリングリストなどで担当者にインプットする。（対象：幹事会全員）

#123 について：

- 社会投資はコメントに書かれているよりもう少し広い概念なのではないか。この場で議論したほうが良いと考えている。
- テーマの立て方が、教育、衛生や雇用創出などと具体的だったのにもかかわらず、ここに来ていきなり包括的な概念になっている。**social investment** は一般論として大切だが、改めて復唱している点に違和感がある。前に出てきた活動と重なるので、必要性がよく分からない。**social investment** の定義は多様でどのようにでも取れる。これから定義が広がってくる可能性がある言葉を使うのは如何か。
- イシューというより手段。入れる場所を変えて整理をし直すともっとよくなるのではないか。
- ボックスにするという解決策もある。
- ここで言う社会投資は政府によるものとそうでないものを区別しているのか？日本だと政府の役割という意識が強いが。
- 以前は **responsible investment** というタイトルだった。それをより対象を限定して **social investment** としている。

- すべてのコミュニティに関する共通の手段のようなことが書いてあるので、イシューとするのは違和感がある。
- 6.8 の構成及び言葉の使い方、重点の置き方については、関委員にも加わっていただいて再度検討したほうがいいのでは。
- 富や社会的投資はイシューから外して、Principle and consideration に書き込み、教育、雇用などはイシューとして入れるなどして見直すというのは、単純削除より受け入れやすいのではないか。
- WD4.2 では social investment の定義があった。定義を外してここで書こうとしているもの。全文削除ではなく、ポジティブな提案があるとありがたい。
- Social investment は包括的な上位概念で捉えられることが多い。Investment に対するリターンという概念が生じやすい。また social なリソースをアクティブにするという意味があり、sustain することが強調されやすい言葉。6.8.2 に Social investment が重要ということを入れたらどうか？

<アクション>

- 本日の議論を踏まえて、修正提案を作成。（修正提案作成：下澤委員）
提案は、全文削除というものではなく、構成の修正案、並べ替え（適切な箇所に移動）とする。
- コンセンサスコメントを作成するために、修正案の作成に関しては、各委員の協力を仰ぐものとし、修正案作成に資する提案などがあれば事務局経由又はエキスパートミーリングリストなどで担当者にインプットする。（対象：幹事会全員）

#110、111 について：

- 連合としては、#110 を採用ということで構わない。
- これは置き換え提案か？
→そのとおり。

<結論(決定事項)>

- #110 を採用。

(4) 金融・経済危機の扱い (#26、27、32、78)

- (#27、32、78 について) 全部に入れろと言っているわけではない。金融・経済

危機に関しては現段階では何とも言えないかもしれないが、現在の状況に対してどこかで言及する必要があるのではないかと。環境のほうに入れるほうが長持ちするかもしれない。今後、公共投資において環境などを考慮した方向にウェイトが置かれていくのではないかと。発展途上国を巻き込むためにも書いていただければ。

- IDTF でも議論になった。案を用意しておくというのではないかと。
- グローバリゼーションのところにひとつの実例として入れる、一般論として入れる、このような状態を予防するために社会的責任に沿った方向が重要であると言う、といった3つくらいの方向があるが、3つ目は陳腐化しやすい。
- (#26 について) 100年に一度と言われる金融・経済危機については、何らかの言及が必要。ただ、「今日の」というのではなく、一般的な言い方がいいのではないかと。雇用、環境に対しても影響があるのだということをどこかに入れておいたほうが良いと思う。
- 経済状況が悪くなれば、当然として社会的弱者が出てくる。それに対して組織がどうしたらいいかという書き振りにすべきではないかと。経済と環境と社会的責任を両立していこうというのがこの規格の趣旨なので。
- 中身については賛成だが、皆が実感して感じているのであれば、規格の中に入れるのではなく、教育啓発に用いてはどうか？時事トピックスとして入れるのは如何か。入れるにしても、すたれないような入れ方にすべき。
- 最近の動向のところに入っていれば、違和感はないのではないかと。
- 「世界同時進行の問題は複雑だから、すべての組織が対応することが重要」という書き方はあるかもしれない。
- 最近の社会情勢ではなく、トレンドを書く部分。トレンドが現段階で本当に明確になっているのか疑問。
- もう少しジェネリックな言葉にして、序文又は 3.2 に一般的に書けないか？
 - 他にもテロ、SARSなどを的確に見極めて書くとまとまりが良いのではないかと。
 - 「経済・社会動向に関わらず」というのが一般的だが、もう少し踏み込みたい。
- 313行の出だしは読み手にとって違和感があるのではないかとという指摘がある。グローバリゼーションは光の部分だけではない。
- 胡錦濤氏の演説などで出てくるのは企業の社会的責任。行き過ぎた自由主義と利益主導主義が悪いというのがトレンド。これを入れると産業界は反対するだろうが如何か。
 - 普遍的な言葉に置き換えてあればいい。経済が苦しい時こそ課題も大きくなるというニュアンスで書くのであればいい。

- 社会的責任はどのような状況であれ必要なこと。最近のことにフォーカスを置くと本来の趣旨から逸脱する。
- 「経済・社会活動の短期的な変動にかかわらず、SR があらゆる組織にとって重要」と入れて読ませる手はある。
 - 3.2 に時事的なものは入れないということだが、ここにあるのは1年前くらいのもので既に違ってきている部分がある。最近の動向は必要ないのではないか。ここはグローバル化と社会的責任としてジェネリックなことだけを書いておいてはどうか。
 - 3.2 自体は詰まっている内容なので、変更は難しい。
 - 3.2 はだいぶ軽くなったイメージ。なくすことはできない。現在のことを数行入れるというのでいいのではないか。
 - 319～321 あたりに経済危機の連鎖をさらっと一般的な言い方で入れるのはどうか？
 - 「経済の好況・不況にかかわらず SR が大切」という言い方で、イシューとは別にすべきではないか。
 - 最初のところを「組織の社会的責任に関する関心は高まっており、これは経済の好況・不況にかかわらず重要」という言い方にしては？
 - 以前は何故この規格が、社会的責任が必要なのかということが書いてあったと思うが、「好不況にかかわらず」として最初の行に入れると当初の意図と違ってきてしまうのではないか。
 - トレンドとして何か加えることがないかということであって、コンセンサスが取れないのであれば、あまり無理する場所でもない。
 - #27 の文章のほうがいい。
 - 序文に入れるほうが、収まりがいいのではないか。
 - 序文に入れると「時事ねた」が入っている印象にならないか？
 - 今回の経済危機を取り出して本文に入れるのではなく、「経済状況の如何を問わず」と一般化して入れるか？
 - 「経済・社会状況の短期的な変化の如何にかかわらず、SR subject への対応をはじめ、社会的責任に対する取り組みがますます重要になっている。」というような主旨では如何か？

<アクション>

- 本日の議論を踏まえて、修正提案を作成。（修正提案作成：青木オブザーバ）

より一般的な記述とし、経済環境、社会環境の変動にかかわらず、SR サブジェクトの重要性の認識、組織における SR の取り組みの重要性を盛り込む。

本提案は、序文ではなく、3.2 とする。

- ・ コンセンサスコメントを作成するために、修正案の作成に関しては、各委員の協力を仰ぐものとし、修正案作成に資する提案などがあれば事務局経由又はエキスパートメーリングリストなどで担当者にインプットする。(対象：幹事会全員)

6. 3 今後のスケジュールの確認

今回は、2月13日（金）13時半～17時に砂防会館で開催することを確認した。

今回は、ステークホルダーエンゲージメント、SMO ボックス、児童労働などを検討する。

上記のアクション事項及び前回幹事会における宿題事項のアウトプットは、本幹事会で最終的に確認を行う。

<主なコメント>

- ・ なるべくコンセンサスの高いものとなるよう、修正提案は事前に送付いただきたい。
- ・ 連合のコメントリスト（WGI-17-3）については、当該コメントを提出したグループが対応しやすいように（あらかじめ準備できるように）反対や確認の理由をいただきたい。

以 上